

研修報告書 帯広市議会 市政会

【日時：視察項目】

令和6年1月31日（水） 10：00～ 6次産業化の取組みについて

【参加議員】

有城 正憲 議員、佐々木 勇一 議員、大塚 徹 議員、西本 嘉伸 議員

【視察先】

中津市役所

〒871-8501 大分県中津市豊田町 14-3

TEL：0979-22-1111

【目的】

農産物の付加価値向上は帯広市の農業者のみならず、関連産業や地域経済に及ぼす波及効果も大きいと考えられるが、実際にどのような取組みが必要なのか考えなければならない。市内においても、農家一戸当たりの耕作面積も増加傾向にあり、今後も後継者不足などを背景に、農家戸数の減少、耕作面積の増加などにより、農業の経営スタイルもどのような方向に向かっていくのか、省力化作物に向かうのか、一方で、限られた面積の中で高収益作物の生産を導入する生産者も存在し、今後多様な視点も必要になってくると考える。

今回は、生産された作物にいかにか付加価値をつけるのかといった観点から、先進地としての大分県中津市の取組みを調査研究し、今後の帯広市の農業者の収益向上や地域経済の拡大、新たな雇用の創出や地域ブランドの向上につなげるために視察を行ったもの。

【概要】

中津市は大分県の西北部に位置している。北に周防灘が広がり南には日本有数の渓谷として有名な耶馬溪(やうまけい)の山々が連なり、ここを源流とする山国川が市の西部を流れている。瀬戸内海式気候のため温暖だが年間降水量が少なく、上流のダムは北九州市と大分県北部の水がめとして重要な役割を担っている。また、平野部では稲作やキュウリ、ネギ、シイタケ、ニラ、ソバ、茶、ナシ、ブドウ、モモなどが栽培され、工業系ではダイハツ工業といった自動車関連企業が多い。

【質疑応答】

質 中津市の地域の強みをどのように捉えているのか。

答 中津市は中山間地を抱え耕作面積は限られている。その中で地域の強みとは何かを考えたときに、豊富な山・川・里・海といった地域資源や、福沢諭吉や黒田官兵衛などの歴史的な史実など、いかに地域の強みを高めるかが重要と考えた。

質 中津市が6次産業化に取り組んだ経緯については。

答 中津市は福岡県に隣接し、経済圏は北九州市などに依存しており、現在は、自動車関連産業等が進出してきている。一方で基幹産業は農業であり、人口減少など農村地区の課題解決、地域の活性化のために取り組んでいるところである。

質 帯広市も基幹産業は農業である。しかしながら、農業者は生産することに忙殺され、6次産業化に取り組んでいる生産者はごく少数であるが、どのような認識を持たれているか。

答 本市においても農業者からは同様の声が聞こえている。そこで我々がどのような手助けができ、地域の活性化に結びつけられるのかとの考えから事業を推進している。

質 総合型産業推進事業としてセミナーを開催されているが参加者数などは。

答 今回のセミナーについては参加者20名ほどで、イベントの企画やネットワーク会員に対する支援などに関わる行事を設定しているが、最近は懇親会なども合わせて行い、堅苦しくない雰囲気づくりの中で進めている。

質 なかつ6次産業創生推進補助金の利用状況については。

答 現在88事業所が加盟しているが、今年度は3件、来年度は2件を予定している。

質 同じ事業者が年度をまたいで申請は可能なのか。商品開発と施設・機械整備については。

答 商品開発の内容が違えば可能である。また、生産に必要な加工施設・機械の整備についても同じである。ただし、協議会が定める推奨品についてのみ補助の対象となる。

【所見】

新たな価値の創出による需要の開拓は、農業の成長産業化には重要な事柄と捉えている。

現状帯広市においては、農家個々が独自に加工、直売、販路開拓を行っているが、6次産業化に対する考え方は、おのずと農家ごとに様々な状態にあり、取り組んでいる事業者や農業者もごく少数である。

帯広市の農産物の高付加価値化をサポートするために6次産業化への環境整備を行い、取り組みやすい環境へ導くことが理想であるが、6次産業化に対する帯広市の戦略は未策定状態に見える。

視察でも感じたが、帯広市においては農協の存在が大きいのか行政としての6次産業化に向けたアプローチには不満を感じているところでもある。安定した農業基盤に安住しすぎず、このような取り組みに対する意識の熟成を求めたい。

また、帯広市が取り組んでいるフードバレー構想における6次産業化の立ち位置についても再確認が必要だと思うし、地域の抱える課題とは何なのかといった視点の重要性を認識した。また、6次産業化に向けた行政としての相談窓口や官民の連携、意思の疎通や農業関連団体との連携など、課題は多いと認識し改善の必要性も感じた。

今回の視察は、市役所内の会議室を利用させていただいたが、後方には、地場で生産されたなかつ6次産業化産業推奨品が並べられ、視察終了後、担当した経済部の職員自らが販売員となり、私たちに是非、お土産にお願いしますとの事で、自ら計算機を持ち販売している姿に中津市の本気度を感じた。

【日時：視察項目】

令和6年2月1日（木） 9：00～「駅複合施設エンクロス」について

【参加議員】

有城 正憲 議員、佐々木 勇一 議員、大塚 徹 議員、西本 嘉伸 議員

【視察先】

延岡市役所

〒892-8677 宮崎県延岡市東本小路2-1

TEL：0982-34-2111

【概要】

中心市街地衰退は地方都市では例外のない現象だが、特に駅前の衰退は観光客などにはその都市を訪れた玄関的活況を示すバロメーターだ。

延岡市も各種商業施設が撤退し市民の不満がたまっていた。その駅前を市長の思い入れでテコ入れし、市民・観光客の居場所作りとして JR・地元企業と連携し、駅複合施設エンクロスを作り成功している。

類似の悩みを抱える地方都市として、成功先進事例を視察した。

【質疑応答】

質 どのような経緯で駅複合施設構想ができたのか。

答 前市長の思い入れだが、平成20年から市民との対話から検討を始め実際完成は平成30年となった。

質 議会ではどのような議論があったのか。

答 総論賛成・各論反対の感があった。

商業を中心に・市民活動にプラスすべき・若者の居場所づくりなど議論があった。

質 結局どのようなコンセプトでこの政策を考えたのか。

答 駅は都市の玄関であるが、そこを商業的のみでない、市民活動、コミュニティ形成、高齢者・若者・観光客の居場所も考えた拠点とした。

質 そのほかのコンセプトは。

答 中心市街地への波及効果も考えた。

質 市民からの意見は。

答 高齢者は自慢の町にしたい。若者は暇つぶしの場所が欲しいとの声が強かった。

質 その結実が複合施設エンクロスだと思うが、その苦心過程は。

答 最初に著名なデザイン監修者建築家を呼んでプレゼンテーションをし、市民への盛り上がりを画策した。市民・設計者・施工者・専門家などを加えたプロジェクト(市民ワークショップやイベント)などを各段階において、より繊細に堅実に取り組んだ。

質 最終的なデザインの応募は。

答 地元の若手建築家5人の合議制にした。

質 エンクロスの建設用地は。

答 JR九州の土地を買収した。

質 駅前だと駐車場の問題があるのでは。

答 帯広市と違い延岡市は土地が狭く、市民が駐車場にお金を使う事は苦ではない土壌がある。エンクロスの駐車場は北側120台、2時間無料としているが市民の苦情はない。

質 中心市街地振興は波及したのか。

答 R4年に駅前西口街区ビルが5階建て完成。地元の旭化成・商工会議所・信用金庫などが入居。成果は出てきている。

質 最終的事業費は。

答 50億円弱、一般財源は20億となった。残りは国・市債・基金で賄った。

質 運営については。

答 初めから全民間連携指定管理者とした。

質 市役所内での連携は。

答 文化部が文化的整備振興を考え、駅前振興は商業部と分けしている。

質 読書室には蔵書があるが購入費は。又既存の図書館とはどのような違いがあるのか。

答 毎年 100 万円。市民要望を鑑み予算化している。既存図書館とはあくまで趣旨は違うが連携はしている。

質 完成以来 5 年目の市民の反応は。

答 来館者は、今年はコロナ前の 100 万を超える予定であり、市民は満足していると考えている。

【所見】

初めは高岡市のような文化ホールを兼ね備えた大再開発事業化と思ったが、見た目は簡素だが、室内は明るくこれまでの既存類型（図書館・コミセン・待合室など）にない新価値観を持った施設で驚いた。

地方駅に行くとならずに待合室の質素さ・不便さを感じるが、ここは観光客・老若男女の市民が憩えるオアシスであり、気軽に著名なコーヒーショップの飲料も持ち込みができるなど、まさに市民が様々な目的で集い、ゆっくり過ごす場所を公共施設として提供する新しい形の簡易複合施設だった。

我々市外者も時間つぶしに困る他地方都市と違い、電車待ち合わせなどもゆったりと過ごせることが出来た。

帯広市は確かにそれぞれが単体施設であるが、そのミニ総合版を駅に作った延岡市の先見性に喝采を送りたい。このような施設が帯広駅前にあれば、商業施設が相次ぎ撤退する中、休憩する場所を失ってしまった市民、特に学生・若者には喜ばれる施設と感じた。駅前が元気であれば何でもできると感じることでできる大変有意義な視察であった。